

メール DM サーバー セットアップマニュアル [Approach DAM]

目次

1.メールDMサーバーの要件について	2
1-1.動作環境.....	2
1-2.製品バージョン要件	2
2.メールDMサーバーのインストール	3
2-1.インストール開始（メディアから実施）	3
2-2.インストール開始（ダウンロードから実施）	8
3.インストール後の設定.....	10
4.メールDMサーバーのアンインストール.....	16
5.メールDMサーバーFAQ	17

1.メール DM サーバーの要件について

1-1.動作環境

項目	
CPU	2 コア/2.0GHz 以上
メモリ	8GB 以上
OS	サーバーOS Windows Server 2022, 2019 クライアント OS OS Windows 11、10 ※メール DM サーバーはデスクトップ用途であるクライアント OS でも動作しますが、保守性・堅牢性の観点から、メール DM サーバーを外部に公開してメール取込を行う場合はサーバーOS をご用意ください。

- ・外部送信できるインターネットメールアカウントが必要となります。
- ・メール DM サーバーが、インターネットメールサーバーに常時接続されていることが前提です。
- ・ネットワーク構成によっては一部のポート公開または固定グローバル IP アドレスが必要となる場合があります。
- ・メール DM サーバーを NIVMS 製品がインストールされているサーバーにインストールすることはできません。

1-2.製品バージョン要件

メール DM を利用可能な製品については、以下の通りです。

製品名
Approach DAM
本書における製品名の呼称について 本書では『Approach DAM』という呼称で説明しています。弊社製品の『Sales Force Assistant』シリーズと『Approach DAM』を一緒に導入されている場合、システム設定などの一部のタブメニューの製品名表記が異なる場合がありますが該当箇所は適宜お読み替えてください。


※上記以外の製品は利用対象外となります。

※Approach DAM の前身である「顧客創造 Approach」をご利用時のメール DM サーバーとは互換性はありません。そのような環境では最初に旧バージョンのメール DM サーバーを完全にアンインストールする必要があります。メール DM サーバーのアンインストール方法については、本ドキュメントの後述の「メール DM サーバーのアンインストール」を参照ください。


2.メールDMサーバーのインストール

以下では、メールDMをインストールする手順をご説明いたします。

メールDMは Windows アプリケーションとして作成されているので、動作環境にある Windows OS の各エディションがインストールされているマシンで、ネットワークに正常に接続可能な環境であれば、インストールが可能です。

 <p>注意</p>	<ul style="list-style-type: none">• WEB サーバーとして Apache2.X を同時にインストールします。 I I S等のWEBサーバー製品が既にインストールされている場合は、その関連項目も含めて必ず終了させてからインストールを始めてください。• インストールの実施は、必ず Administrator の権限をもつユーザーで実行してください。クライアント OS の場合は Administrator ユーザーで実行してください。ただし、OS のバージョンによっては Administrator ユーザーが無効になっているため有効にする必要があります。詳細は各 OS のマニュアルを参照ください。• Windows のユーザーアクセス制御 (UAC) が有効になっているとメール DM サーバーが正しく起動しないので UAC は無効にしてください。詳細は各 OS のマニュアルを参照ください。
--	---

2-1.インストール開始（メディアから実施）

 <p>注意</p>	<ul style="list-style-type: none">• クラウドサービスをご利用のユーザー様は、ファイルのダウンロードからのインストール作業となります。 詳しくは、次項「2-2. インストール開始（ダウンロードからの実施）」をご参照ください。
--	---

メール DM をインストールするにあたり、インストールファイルのダウンロードからインストール完了までの手順を記載しております。

記載内容をよくご確認の上、作業を実施してください。

1. セットアップの実施

製品 CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入し、CD-ROM 内の「MailDMServer-setup.exe」をダブルクリックして下さい。メールDMのセットアップが開始します。

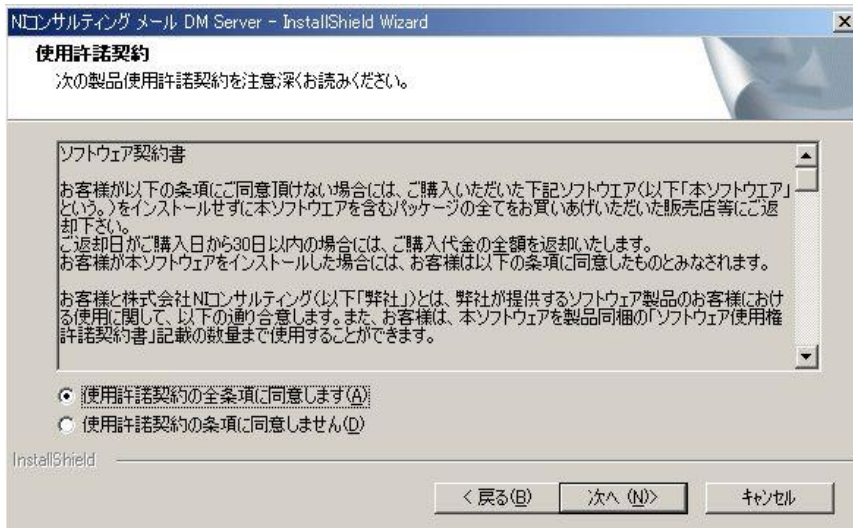


2. 使用許諾契約への同意

次に仕様許諾契約への同意を求める画面が表示されます。

ソフトウェア契約書をよくお読みの上同意いただける場合は、「使用許諾契約の全条項に同意します(A)」を選択し、[次へ]を押してください。

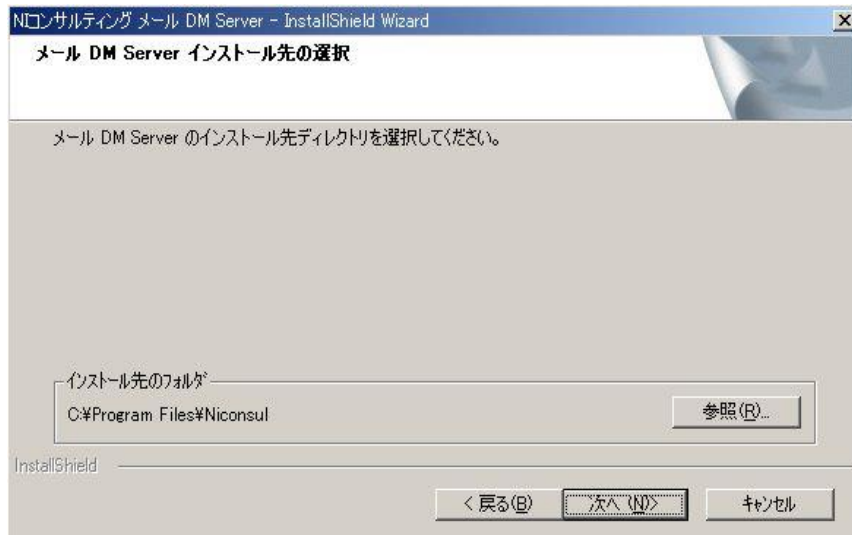
(同意いただけない場合は、インストールできません。)



3. インストール先の選択

次に、メールDMのインストール先を選択する画面が表示されます。

インストール先フォルダを選択し、[次へ]を押してください。(通常はデフォルトのままです。)



4. WEB サーバーインストール確認

次に、WEB サーバーのインストール確認ダイアログが表示されます。

Apache2.X 系がインストール済みの場合は、[いいえ]を押してください。

※IIS・Apache1.X 系等の WEB サーバソフトが稼動している場合は、その関連項目も含めて必ず終了させてください。

※IIS 等の停止方法は、「5.メール DM サーバーFAQ」にて記載しておりますので、ご参照ください。

Apache2.X 系をインストールしても良い場合は[はい]を押してください。

(確認方法：コントロールパネル>管理ツール>サービスの IIS ADMIN SERVICE)



5. Apache2 が使用するポートを選択

Apache2.X 系が使用するポート番号を指定します。

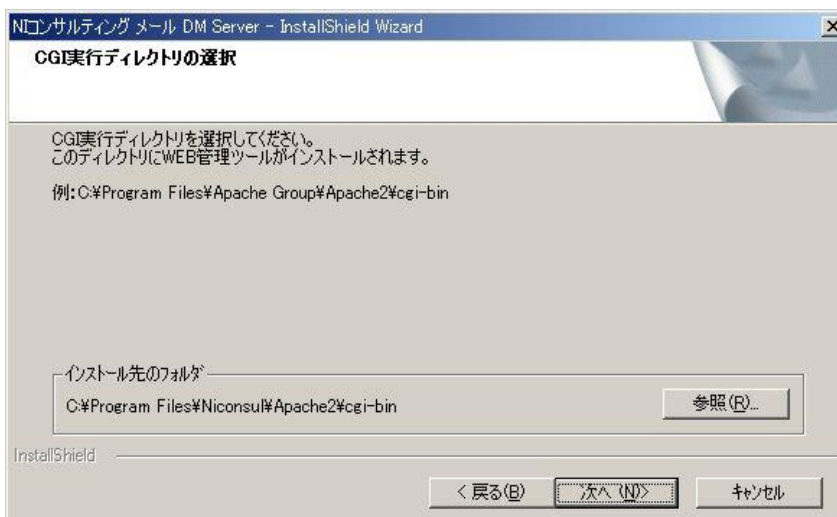
このとき、初期値としてポート番号【8080】が指定されていますので、その他ポート(80、8081) を選択する場合は、それを選択して[次へ]を押してください。



6. CGI 実行ディレクトリの選択

WEB サーバーインストール確認で[いいえ]がクリックされた場合に表示されます。

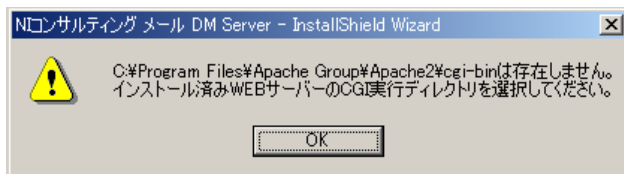
インストール済みの Apache2.X 系の CGI 実行権限のあるディレクトリを選択して、[次へ]を押してください。



7. CGI 実行ディレクトリ存在確認

CGI 実行ディレクトリが存在しない場合は、以下の確認ダイアログが表示されます。

[OK]を押すと CGI 実行ディレクトリの選択画面に戻るので、存在するディレクトリを指定してください。



8. ドキュメントルートディレクトリの選択

WEB サーバーインストール確認で[いいえ]が押された場合に表示されます。

インストール済みの Apache2.X 系のドキュメントルートディレクトリを選択して、 [次へ]を押してください。



9. ドキュメントルートディレクトリ存在確認

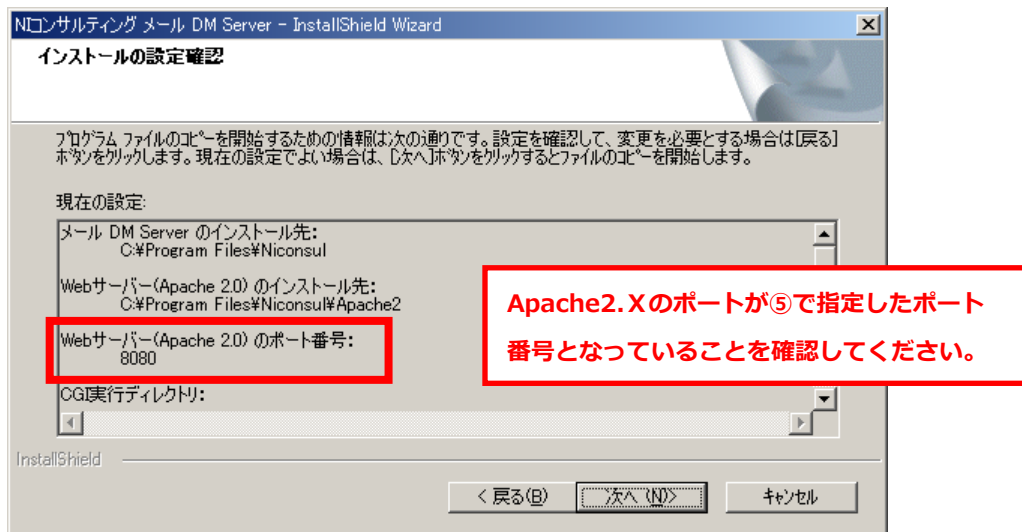
ドキュメントルートディレクトリが存在しない場合は、以下の確認ダイアログが表示されます。

[OK]をクリックするとドキュメントルートディレクトリの選択画面に戻るので、存在するディレクトリを指定してください。



10. 設定内容の確認

「ファイルコピーの開始」画面が表示されます。設定項目をご確認の上、[次へ]を選択してください。



11. 最後に、「インストール準備の完了」画面が表示されるので、[インストール]を押してください。インストールが開始されます。



12. インストールが完了しましたら、「Install Shield Wizard の完了」画面が表示されます。

「完了」をクリックし、セットアップを終了してください。

⇒メールDM管理ツールが自動起動されます。

以上で、セットアップが完了です。引き続き、「インストール後の設定」をご参照ください。

2-2.インストール開始（ダウンロードから実施）

製品のシステム設定画面よりファイルをダウンロードし、インストール完了までの手順を記載しております。記載内容をよくご確認の上、作業を実施してください。



注意

- WEB サーバーとして Apache2.X を同時にインストールします、
I I S 等のWEBサーバー製品が既にインストールされている場合は、その関連項目も含めて必ず終了させてからインストールを始めてください。
- インストールの実施は、必ず Administrator の権限をもつユーザーで実行してください。クライアント OS の場合は Administrator ユーザーで実行してください。ただし、OS のバージョンによっては Administrator ユーザーが無効になっているため有効にする必要があります。詳細は各 OS のマニュアルを参照ください。
- Windows のユーザーアクセス制御（UAC）が有効になっているとメール DM サーバーが正しく起動しないので UAC は無効にしてください。詳細は各 OS のマニュアルを参照ください。

1. インターネットエクスプローラーを立ち上げます。
2. インターネットエクスプローラーのアドレス欄に「Approach DAM」の URL を入力し、指定した URL に移動します。

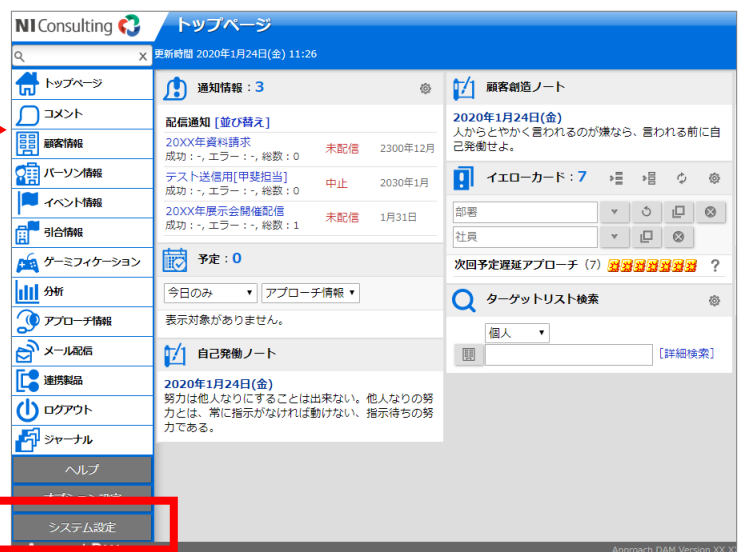
http://(サーバーに設定しているホスト名、または IP アドレス)/ni/nisfa/main/

3. ログイン画面が表示されます。システム管理者用の「ログイン ID」「パスワード」を入力し、ログインボタンを押します。
4. トップ画面左下の「システム設定」を押し、システム設定画面を開きます。
5. ログイン用「パスワード」を入力し、ログインボタンを押します。

【ログイン画面】



【トップ画面】



6. システム設定の 製品名タブ (Approach DAM) より「メール」の「[メールDMサーバーダウンロード](#)」を選択します。

メール	共用メールアカウント	ステップメールを含むメール配信やメール取込
	ステップメール	ステップメールの設定をします。
	メールDMサーバー	メール配信に必要な配信サーバーとの連携を設
	メールDMサーバーダウンロード	NIコンサルティング提供のメールDMサーバ
メール取込	予約語一覧	メール取込時の予約語が確認できます。

7. 「メールDMサーバーのダウンロード」画面が表示されますので、「ダウンロード」ボタンを押し、nidam.zip ファイルをダウンロードします。



メールDMサーバのダウンロード

下記ファイル欄のリンクからファイル(nidam.zip)をダウンロードした後、任意の場所に解凍してください。マニュアルと実行ファイル等が含まれておりますので、作業内容はマニュアルを参考にして実施してください。

ダウンロード

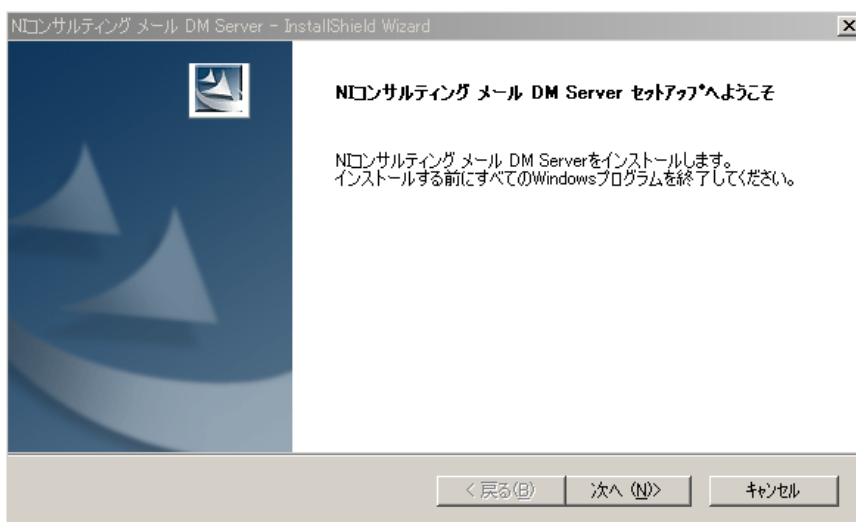
株式会社NIコンサルティング サポートデスク


E-mail: support@ni-consul.co.jp
 URL: <http://www.ni-consul.jp/>
 FAX: 082-511-2226

営業時間: 弊社休業日、土・日・祝日を除く月曜日～金曜日 9:00～12:00、13:00～17:00

8. セットアップの実施

ダウンロードしたファイルを解凍し、「MailDMServer-setup.exe」をダブルクリックして下さい。メールDMのセットアップが開始します。





注意

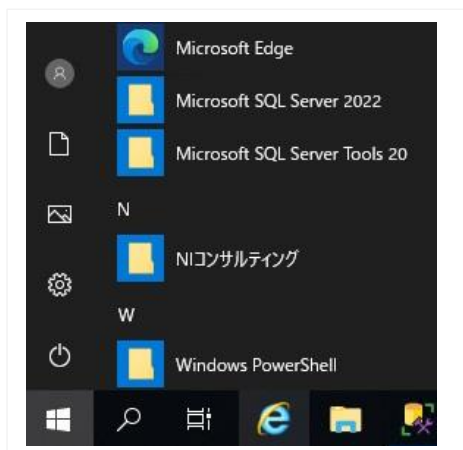
- これ以降の手順につきましては、製品 CD-ROM からのインストール方法と同様です。
- 「2-1. インストール開始 (弊社提供メディアからの実施)」の手順②以降をご参照ください。

3.インストール後の設定

メール DM のインストールが完了しましたら、Approach DAM との連携を有効にするために、管理ツールより連携設定をしていただく必要があります。以下の手順に従い、必要項目を設定してください。

1. メール DM サーバーの管理ツールを起動します。

- ① ブラウザ（Microsoft Edge など）を起動します。



- ② ブラウザのアドレス欄に以下のアドレスを入力すると、管理ツールが起動されます。

<http://127.0.0.1:8080/cgi-bin/tas/dm.exe/admin/index.php>

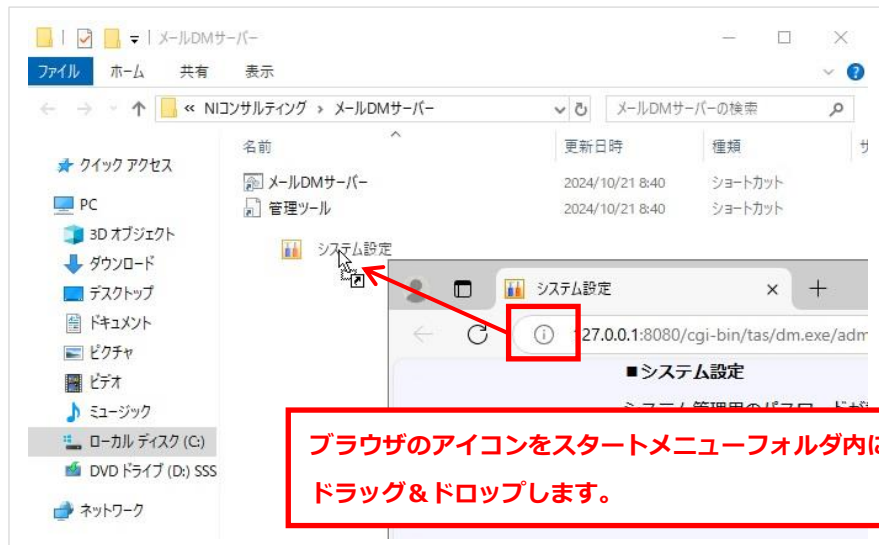
※メール DM サーバーのインストール時にポート番号を変更した場合は上記の「8080」の箇所を変更したポートに変更します。



メール DM インストール後に任意に Apache2.X のポート番号を変更された場合は、スタートメニューの「管理ツール」は作成しなおす必要があります。

例. メール DM インストール後にポート番号を【8888】に変更した場合

- ① メール DM サーバーのスタートメニュー-「NI コンサルティング」-「メール DM サーバー」を右クリックから「開く」を選択し、スタートメニューに登録されているフォルダを開きます。
- ② ブラウザで「<http://127.0.0.1:8888/cgi-bin/tas/dm.exe/admin/index.php>」を開いて、URL 欄のブックマークを①で開いたフォルダ内にドラッグ&ドロップすることでスタートメニューに登録します。
- ③ 古い「管理ツール」のショートカットは削除します。



2. メール DM サーバー 管理ツールでのログイン。

ログイン用のパスワードを入力してログインします。ログインパスワードは、**admin** を入力してください。

■システム設定

システム管理用のパスワードが設定されています。パスワードを入力してください。

●●●●●

ログイン

Copyright (C) 1998-2019 NI Consulting Co.,LTD. All rights reserved.

3. 基本設定より連携設定を選択します。初期表示画面として、[連携設定]画面が表示されます。
表示画面にある項目に必要な情報をセットし、[保存する]ボタンを押してください。


システム設定		メールDM管理																																														
基本設定 連携設定 状態一覧 パスワード設定 実行ログ メール送信ログ メール受信ログ メール配信ログ マスタ連携ログ メール連携ログ 配信情報受信ログ コマンドメール受信ログ 受信済コマンドメール メンテナンス データメンテナンス	連携設定 メールDM管理 > 連携設定 <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; background-color: #ffffcc;"> Approach DAM と連携して使用するためには、1メールDMモジュールにつき、1メールアカウントが必要になります。 また、このメールDMをインストールしたマシンから Approach DAM がインストールされているサーバーへ接続・通信可能である必要があります。 </div> (※) は必須項目です。 <table border="1"> <tr> <td>メールDM名 (※)</td> <td>メール配信サーバー</td> </tr> <tr> <td>連携用メールアドレス (※)</td> <td>dmserver@xxxx.co.jp</td> </tr> <tr> <td>OAuth2.0 (※)</td> <td> <input checked="" type="radio"/> 利用しない <input type="radio"/> 利用する </td> </tr> <tr> <td rowspan="5">受信(POP3)サーバー設定 (※) 配信情報など連携情報の受信設定</td> <td>サーバー名</td> <td>xxxx.co.jp</td> </tr> <tr> <td>プロトコル</td> <td> <input type="radio"/> STARTTLS <input type="radio"/> SSL/TLS <input checked="" type="radio"/> 非暗号化 </td> </tr> <tr> <td>ポート番号</td> <td>110 サーバertimeアウト 30 秒</td> </tr> <tr> <td>ユーザー名</td> <td>dmserver</td> </tr> <tr> <td>パスワード</td> <td>*****</td> </tr> <tr> <td>受信メール</td> <td colspan="2"><input type="checkbox"/> 受信メールのコピーをメールサーバーに残す</td> </tr> <tr> <td>TLSバージョン</td> <td colspan="2"> <input type="radio"/> TLS1.0 <input type="radio"/> TLS1.1 <input type="radio"/> TLS1.2 <input checked="" type="radio"/> 指定しない </td> </tr> <tr> <td>Approach DAM の接続URL (※)</td> <td colspan="2"> http://xxx.xxx.xxx.xxx/ni/zcom/module/dm.php (例) http:// (IPアドレスまたはドメイン名) /ni/zcom/module/dm.php </td> </tr> <tr> <td rowspan="4">プロキシ設定 プロキシ経由で接続する場合の設定</td> <td>サーバー名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ポート番号</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ユーザー名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>パスワード</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">基本(Basic)認証設定 基本認証経由で接続する場合の設定</td> <td>ユーザー名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>パスワード</td> <td></td> </tr> <tr> <td>連携キー (自動生成)</td> <td colspan="2">491ef6fe067aab4e71d9025a520ae4e2</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"> <input type="button" value="保存する"/> <input type="button" value="クリアする"/> </td> </tr> </table>		メールDM名 (※)	メール配信サーバー	連携用メールアドレス (※)	dmserver@xxxx.co.jp	OAuth2.0 (※)	<input checked="" type="radio"/> 利用しない <input type="radio"/> 利用する	受信(POP3)サーバー設定 (※) 配信情報など連携情報の受信設定	サーバー名	xxxx.co.jp	プロトコル	<input type="radio"/> STARTTLS <input type="radio"/> SSL/TLS <input checked="" type="radio"/> 非暗号化	ポート番号	110 サーバertimeアウト 30 秒	ユーザー名	dmserver	パスワード	*****	受信メール	<input type="checkbox"/> 受信メールのコピーをメールサーバーに残す		TLSバージョン	<input type="radio"/> TLS1.0 <input type="radio"/> TLS1.1 <input type="radio"/> TLS1.2 <input checked="" type="radio"/> 指定しない		Approach DAM の接続URL (※)	http://xxx.xxx.xxx.xxx/ni/zcom/module/dm.php (例) http:// (IPアドレスまたはドメイン名) /ni/zcom/module/dm.php		プロキシ設定 プロキシ経由で接続する場合の設定	サーバー名		ポート番号		ユーザー名		パスワード		基本(Basic)認証設定 基本認証経由で接続する場合の設定	ユーザー名		パスワード		連携キー (自動生成)	491ef6fe067aab4e71d9025a520ae4e2		<input type="button" value="保存する"/> <input type="button" value="クリアする"/>		
メールDM名 (※)	メール配信サーバー																																															
連携用メールアドレス (※)	dmserver@xxxx.co.jp																																															
OAuth2.0 (※)	<input checked="" type="radio"/> 利用しない <input type="radio"/> 利用する																																															
受信(POP3)サーバー設定 (※) 配信情報など連携情報の受信設定	サーバー名	xxxx.co.jp																																														
	プロトコル	<input type="radio"/> STARTTLS <input type="radio"/> SSL/TLS <input checked="" type="radio"/> 非暗号化																																														
	ポート番号	110 サーバertimeアウト 30 秒																																														
	ユーザー名	dmserver																																														
	パスワード	*****																																														
受信メール	<input type="checkbox"/> 受信メールのコピーをメールサーバーに残す																																															
TLSバージョン	<input type="radio"/> TLS1.0 <input type="radio"/> TLS1.1 <input type="radio"/> TLS1.2 <input checked="" type="radio"/> 指定しない																																															
Approach DAM の接続URL (※)	http://xxx.xxx.xxx.xxx/ni/zcom/module/dm.php (例) http:// (IPアドレスまたはドメイン名) /ni/zcom/module/dm.php																																															
プロキシ設定 プロキシ経由で接続する場合の設定	サーバー名																																															
	ポート番号																																															
	ユーザー名																																															
	パスワード																																															
基本(Basic)認証設定 基本認証経由で接続する場合の設定	ユーザー名																																															
	パスワード																																															
連携キー (自動生成)	491ef6fe067aab4e71d9025a520ae4e2																																															
<input type="button" value="保存する"/> <input type="button" value="クリアする"/>																																																

| NI Mail DM Admin Manager Version 10.0(3) Copyright (C) 1998-2021 NI Consulting Co.,LTD. All rights reserved. | | |

「OAuth2.0」項目で、「利用する」を選択した場合、以下の「受信サーバー設定」項目が表示されます。
※基本認証の利用できない、Google 又は Microsoft 様のメールサービスの場合にご利用ください。

受信サーバー設定 (※) 配信情報など連携情報の受信設定	メールサーバー		
	サーバー名		
	ポート番号		
	認証パラメータ情報	パラメータ名	パラメータ値
		client_id	
		client_secret	
		(その他のパラメータ)	
	OAuth2.0認証	認証コードが表示されていない場合や、認証情報が変更になった場合は、利用するメールサービスの認証情報を取得する必要があります。	
		<input type="button" value="認証情報取得"/>	
		メールサービスのログインIDがメールアドレスと異なる場合、以下の入力欄にログインIDを入力してください。	

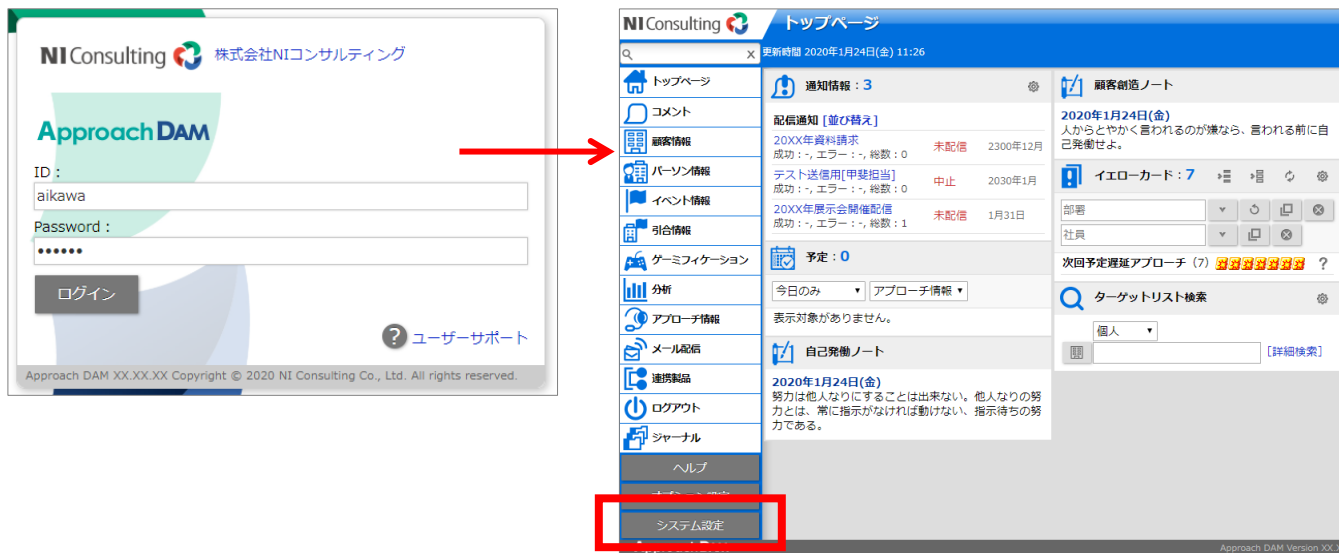
項目	
メール DM 名	任意のメール DM サーバー名を入力してください。
連携用メールアドレス	Approach DAM サーバーと通信するためのメールアドレスを入力します。 ※使用するメールアドレスは、メール DM サーバーのみ使用する専用のアドレスをご用意ください。
受信 (POP3) サーバー設定 (OAuth2.0 を利用しない)	上記「連携用メールアドレス」の受信メールサーバー情報を入力します。 ※「ユーザー名」は、[アカウント名]と記載されている場合もあります。 暗号化通信が必要な場合は、STARTTLS か SSL/TLS を選択してください。 IMAP しか対応していない場合は、プロトコルで IMAP を選択してください。 ※POP3/IMAP とともに、受信メールを削除するかは受信メールの設定に従います。
受信サーバー設定 (OAuth2.0 を利用する)	メールサーバーを選択肢から選択してください。 システム設定マニュアル [基本設定・セキュリティ・運用管理] の、 メールサーバー設定にある、OAuth2.0 を利用した設定方法を参考に、 認証パラメータ情報を設定してください。 ※Web 製品と同じ API を利用する場合、設定をコピーしてください。 OAuth2.0 認証の認証情報取得ボタンを押下し、認証を進めて、 取得した認証コードをテキストボックスに転記してください。 ※ログイン ID は、メールアドレスとログイン ID が異なる場合のみ入力が必要です。
受信メール	メールサーバーから受信済みのメールを削除しない場合は、 「受信メールのコピーをメールサーバーに残す」にチェックを付けてください。
TLS バージョン	STARTTLS 又は SSL/TLS で暗号化通信を行う場合に、バージョンを指定する必要がある場合は、TLS のバージョンを選択してください。 ※通常は「指定しない」のままです。
Approach DAM の接続 URL	製品の URL を入力します。 ※～dm.php まで正確に入力してください。 (例) http://IP アドレスまたはドメイン名/ni/zcom/module/dm.php
プロキシ設定	ご利用の環境に応じて設定してください。
基本 Basic 認証設定	
連携キー	自動生成のため、入力不要。

 注意	<p>メール DM サーバー設定時に、『エラー：接続 URL』というメッセージが表示された場合、以下のどちらかに問題があると考えられますので、ご確認ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 接続 URL が正しく登録されているか、ご確認ください。 ・ プロキシ設定が必要であるか、システム管理者にご確認ください。
---	---

- 次に、Approach DAMにログインし、トップ画面左下の「システム設定」をクリックします。
パスワードを入力し、ログインします。初期パスワードは「admin」
- システム設定画面から製品名タブ（Approach DAM）内の[メール]>[メールDMサーバー]を選択してください。

【ログイン画面】

【トップ画面】



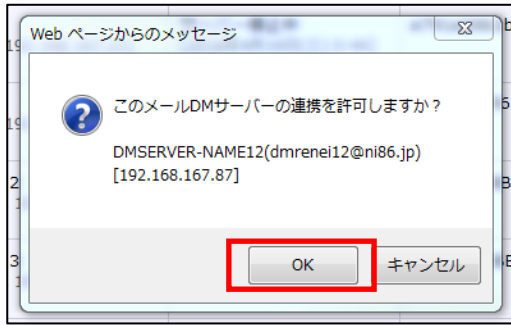
- ②の設定が正常に行われている場合、当画面に連携状態が「許可待ち」の状態、メールDMが認識されます。
画面に出てこない場合は、②の設定内容を確認してください。

「許可」ボタンを押していただくことによって、メールDMの設定が完了となります。

※複数のメールサーバーを利用する場合には、登録された数だけ画面上に表示されます。

システム設定							
基本設定		セキュリティ	NI Collabo 360	Approach DAM	MapScorer	nyoibox	運用管理
Approach DAM > メール/メールDMサーバー							
1		1 - 2 / 2					
連携状態	配信サーバー名	稼働状況	連携キー	連携許可日時			
連携中 削除	メールDM - dmserver38@ni.test [dmserver38@ni.test, 192.168.167.38]	稼働中 [2016年4月14日(木) 18:55]	898c9f34e2a8f6e000ab301b270545cb	2016年4月13日(水) 15:11			
許可待ち 許可 削除	DMSERVER-DAMMY3 [dmrenei@zzz.jp, 192.168.167.32]	未アクセス	AAAAAABBBBB0000011111CCCCDDDD25				

7. 「許可する」ボタンを押すと、以下の画面がポップアップされますので、「OK」を押します。



8. 許可されると画面上では「連携中」の状態へと変わり、メール DM サーバーとの連携が完了となります。これにより、メール DM サーバーと Approach DAM の連携が完了です。

システム設定				
基本設定 セキュリティ NI Collabo 360 Approach DAM MapScorer nyoibox 運用管理				
NI Consulting				
Approach DAM > メール/メールDMサーバー				
1 - 2 / 2				
連携状態	配信サーバー名	稼働状況	連携キー	連携許可日時
連携中 <input type="button" value="削除"/>	メールDM - dmserver38@ni.test [dmserver38@ni.test, 192.168.167.38]	稼働中 [2016年4月14日(木) 18:55]	898c9f34e2a8f6e000ab301b270545cb	2016年4月13日(水) 15:11
連携中 <input type="button" value="削除"/>	DMSERVER-DAMMY3 [dmrenei@zzz.jp, 192.168.167.32]	未アクセス	AAAAABBBBB000001111CCCCDDDD25	




注意

メール DM サーバーを利用するには、メール DM サーバーの稼働サーバーが Windows ログオン状態である必要があります。
 利用中はログオフにしないようご注意ください。
 セキュリティの観点から、ロック状態にすることを推奨いたします。

メール DM サーバーが NIVMS サーバーと連携すると NIVMS サーバーの一部のマスターデータと顧客情報・個人情報 E-Mail 情報の複製データの同期（1分毎に 2000 件前後）が定期的に行われるようになります。
 パerson情報が既に登録されているような場合、初回時は、同期が完了するまで時間を要する場合（Person 10 万件で 1 時間程度）があります。

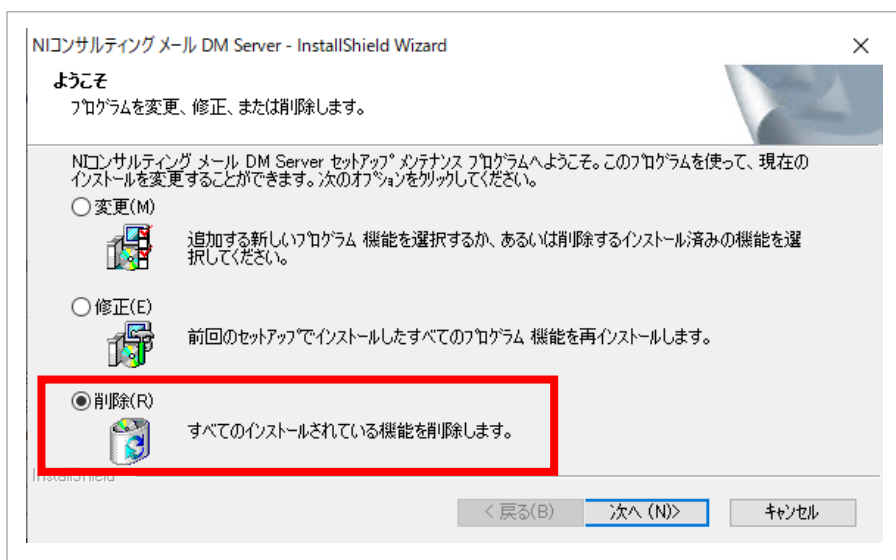
4.メールDMサーバーのアンインストール

本章では、メールDMが運用上不要になり、メールDMサーバーをアンインストールする場合の手順について説明します。

 注意	Approach DAMの前身である「顧客創造 Approach」をご利用されていたお客様で、同じ環境に Approach DAM用にメールDMサーバーを構築する場合、旧メールDMサーバーがインストールされていると正常にインストールできません。インストールの前に、旧メールDMサーバーを本章の手順にしたがってアンインストールする必要があります。
---	--

Windows OSのバージョンによってはUIや説明が若干異なる可能性があります。ここではWindows Server 2019での例を説明します。

1. メールDMサーバープログラムを停止します（停止方法の詳細は後述の章を参照ください）。
2. スタート > コントロールパネル > プログラムと機能 をクリック
3. 「NIコンサルティング メール DM Server」を選択して「アンインストールと変更」を選択し、ウィザードを表示し、「削除」を選択します。指示に従って削除します。



4. 同様の手順で「Apache HTTP Server」もアンインストールします。
5. プログラムのアンインストールが完了したら、以下のフォルダをそのまま手動で削除しアンインストールを完了します。これらはアンインストール操作では削除されないため削除しないとそのまま残り続けます。

メールDMサーバーをインストールしたフォルダ（以下はデフォルト時のパス）

C:¥Program Files (x86) ¥Niconsul

万が一、アンインストールの作業中にサーバーを再起動する旨のダイアログが表示された場合は、そのまま再起動して作業を継続してください。再起動しないと適切にファイルが削除されないなどアンインストールが不完全になる可能性があります。

5.メールDMサーバーFAQ

Q1. IIS等の停止方法がわからない

A.IISの停止方法については、以下の方法を確認してください。

- ① Windowsの[スタート] → [コントロールパネル] → [管理ツール] → [サービス] と進みます。
- ② 開いた画面上で、以下の4つの項目を探します。
 - ・ IIS Admin Server
 - ・ FTP Publishing Service
 - ・ Simple Mail Transport Protocol
 - ・ World Wide Web Publishing Service
- ③ 上記4つの項目において、右クリック → プロパティにてそれぞれ「状態」を【停止】、「スタートアップの種類」を【手動】にして[OK]を押します。

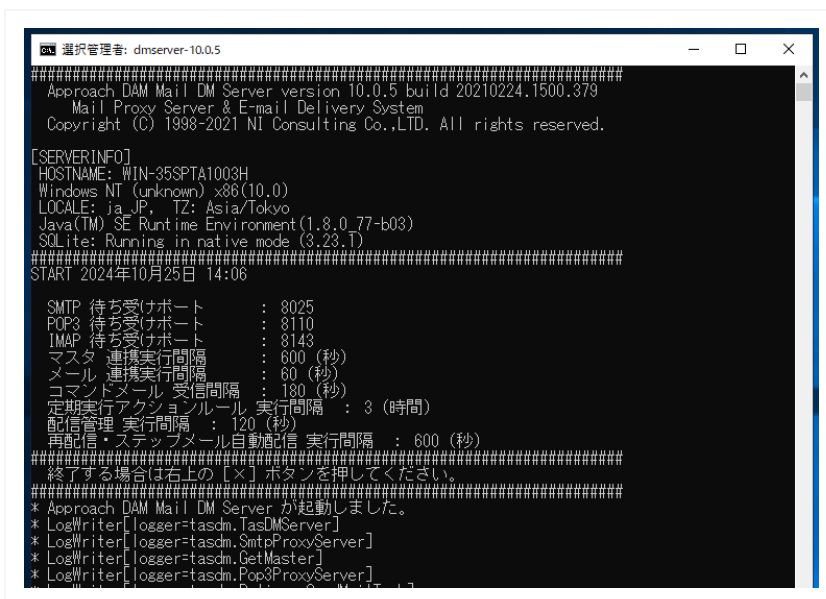
すべての項目において実施できたら完了です。

Q2. メールDMサーバーの起動方法/停止方法

A.メールDMサーバーは手動で起動/停止が可能です。以下の方法を確認してください。

【起動方法】

- ① Windowsの[スタート] → [NIコンサルティング] → [メールDMサーバー] → [メールDMサーバー] と進みます。
⇒メールDMサーバーが起動します。



```
選択管理者: dmserver-10.0.5
#####
Approach DAM Mail DM Server version 10.0.5 build 20210224.1500.379
Mail Proxy Server & E-mail Delivery System
Copyright (C) 1998-2021 NI Consulting Co.,LTD. All rights reserved.

[SERVERINFO]
HOSTNAME: WIN-35SPTA1003H
Windows NT (unknown) x86(10.0)
LOCALE: ja_JP, TZ: Asia/Tokyo
Java(TM) SE Runtime Environment (1.8.0_77-b03)
SQLite: Running in native mode (3.28.1)
#####
START 2024年10月25日 14:06

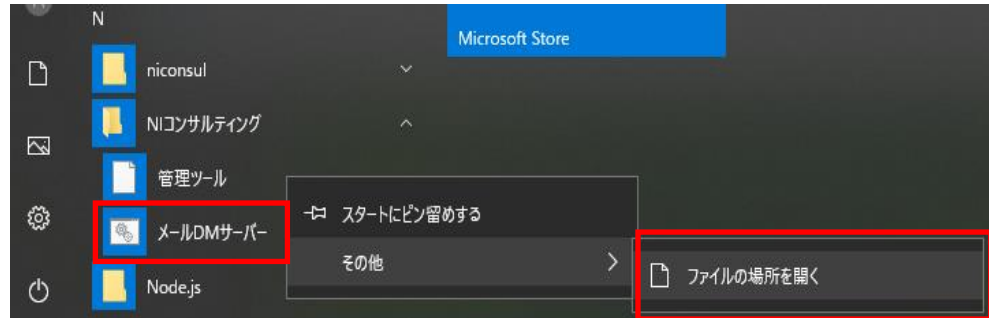
SMTP 待ち受けポート      : 8025
POP3 待ち受けポート      : 8110
IMAP 待ち受けポート      : 8143
マスタ 連携実行間隔      : 600 (秒)
メール 連携実行間隔      : 60 (秒)
コマンドメール 受信間隔   : 180 (秒)
定期実行アクションルール 実行間隔 : 3 (時間)
配信管理 実行間隔        : 120 (秒)
再配信・ステップメール自動配信 実行間隔 : 600 (秒)
#####
終了する場合は右上の [X] ボタンを押してください。
#####
* Approach DAM Mail DM Server が起動しました。
* LogWriter[logser=taskm.TaskMServer]
* LogWriter[logser=taskm.SmtpProxyServer]
* LogWriter[logser=taskm.GetMaster]
* LogWriter[logser=taskm.Pop3ProxyServer]
```

1. メールDMサーバー画面を起動時、画面がすぐに閉じてしまう場合、Windows のユーザーアクセス制御 (UAC) による影響の場合があります。

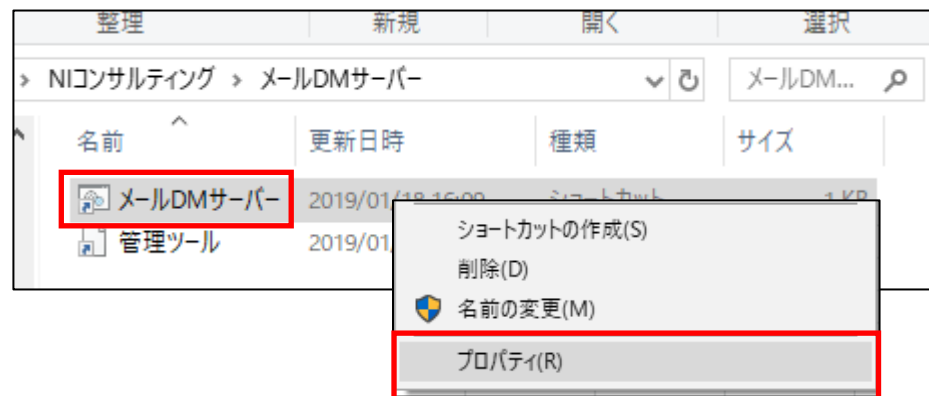
初回起動時のみ、以下の設定をすることで、回避をすることが可能です。

Windows OS のバージョンによっては UI や説明が若干異なる可能性があります。
ここでは Windows Server 2019 での例を説明します。

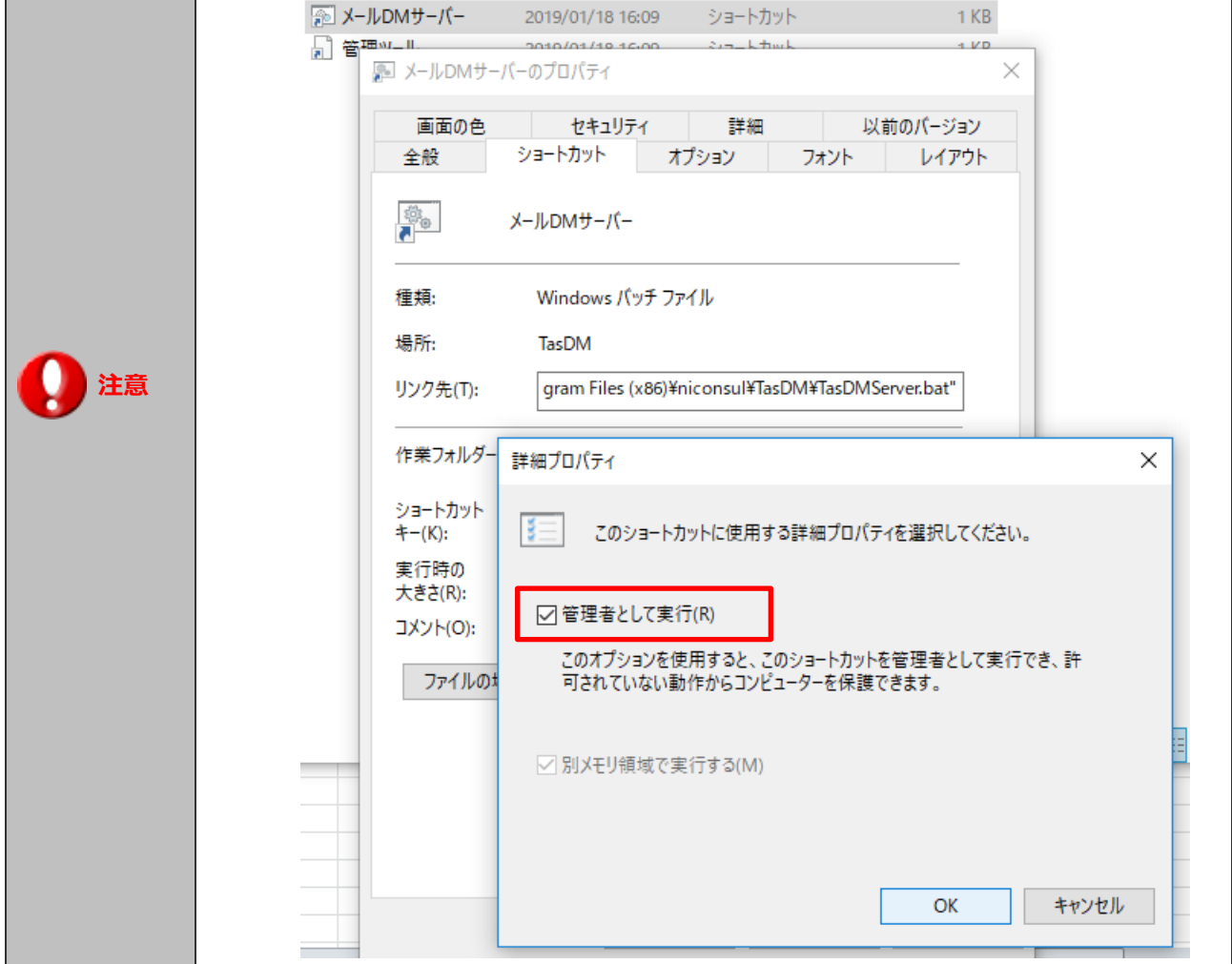
- ① スタートメニューからファイルの場所を開きます。



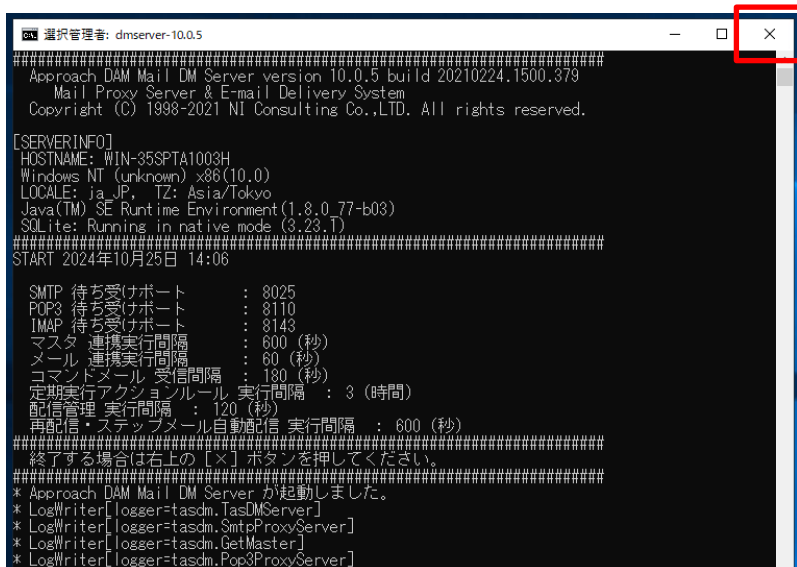
- ② ショートカットの画面を開き、メールDMサーバーを右クリックし、プロパティを開きます。



- ③ 「メールDMサーバーのプロパティ」の画面で、ショートカットのタブで詳細設定ボタンをクリックすると、管理者として実行する設定が可能です。
「管理者として実行」のチェックボックスをオンにして、OK ボタンをクリックして保存をします。



【停止方法】メールDMサーバーの画面の右上の「X」をクリックして閉じると、停止します。

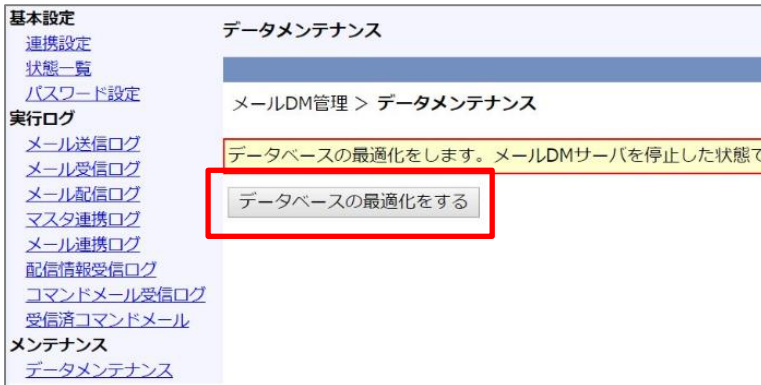


Q3. データベースのサイズが大きいとき

A. データメンテナンス機能を利用することで、データベースのサイズを圧縮することができます。

以下の方法を確認してください。

- ① Windows のスタートメニューの [NI コンサルティング] → [メール DM サーバー] → [管理ツール] を選択します。
⇒メールDMサーバーが起動します。
- ② メールDM管理のメニューリストから、メンテナンス>データメンテナンスを選択します。
⇒データメンテナンス画面が表示されます。
- ③ 「データベースの最適化する」ボタンをクリックしてください。



- ④ 実行結果が「C:\Program Files (x86)\niconsul\tasDM\log\Datamaint.log」に記録されます。

Q4. メールサーバーの SSL/ TLS 接続に必要なルート証明書の設定方法について

A. メール DM サーバーからメールサーバーに、SSL/TLS 接続でメールを受信および配信する際に、メールサーバーのアドレス、ポート番号、ログイン ID、パスワードを正しく指定しても、以下に該当する場合、接続できないことがあります。

- ・メールサーバーの証明書が、第三者認証局が発行するサーバー証明書ではない場合。
- ・メールサーバーの証明書が、サーバー証明書を無料で発行する認証局が発行した場合。

(エラー内容)

受信(POP3)サーバーの接続に失敗しました。 Connect failed

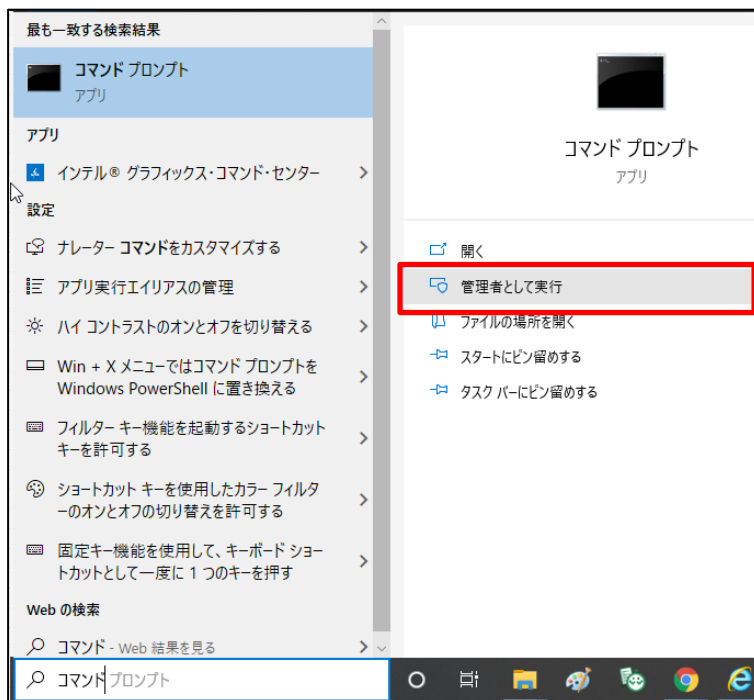
配信エラー ~ unable to find valid certification path to requested target

回避方法は以下の2つがあります。

1. SSL/ TLS 接続を利用しない。
2. メールサーバーの SSL/ TLS 接続に必要なルート証明書を設定する。

設定手順

- ① メールサーバーの接続に必要なサーバー証明書または認証局が発行するルート証明書を準備します。
- ② コマンドプロンプトを「管理者として実行」を指定して開きます。



- ③ コマンドプロンプトにて、証明書を認識させるコマンドを入力して、実行します。
「証明書がキーストアに追加されました」と表示されると設定完了です。

```
"C:¥Program Files (x86)¥niconsul¥TasDM¥jre¥bin¥keytool" -trustcacerts -keystore "C:¥Program Files (x86)¥niconsul/TasDM/jre/lib/security/cacerts" -storepass changeit -noprompt -importcert -file 証明書ファイルのフルパス
```

(実行例) 証明書ファイルを「c:¥windows¥temp¥trustid-x3-root.pem.txt」に準備した場合



```
管理者: コマンド プロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.18362.657]
(c) 2019 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:¥WINDOWS¥system32>"C:¥Program Files (x86)¥niconsul¥TasDM¥jre¥bin¥keytool" -trustcacerts -keystore "C:¥Program Files (x86)¥niconsul/TasDM/jre/lib/security/cacerts" -storepass changeit -noprompt -importcert -file c:¥windows¥temp¥trustid-x3-root.pem.txt
証明書がキーストアに追加されました

C:¥WINDOWS¥system32>
```

- ④ メール DM サーバーを起動します。

○ 商標

本説明書に登場する会社名、製品名は各社の登録商標、商標です。

○ 免責

本説明書に掲載されている手順による操作の結果、ハード機器に万一障害などが発生しても、弊社では一切の責任を負いませんのであらかじめご了解ください。

○ 発行

2024年10月28日 第8版

株式会社 NIコンサルティング

テクニカルサポート

E-mail : tech@ni-consul.co.jp Tel : 050-5578-5014

営業時間 : 9 : 00-12 : 00 13 : 00-17 : 00 (土日祝および弊社休業日を除く)

製品保守契約をご契約のお客様のみご利用が可能です。

メールは休業中も受け付けております。お休み中にいただきましたお問い合わせにつきましては、

メール・お電話共に翌営業日以降順次ご対応させていただきます。予めご了承下さい。